

まいづるパートⅡ

令和4年度 No.17 校長室だより

通算No.17 (R5. 2. 8)

霧島市立国分小学校長

☆ 胸を張って堂々と生きる ☆

3学期に入ってからの全校朝会では、毎回、学校教育目標である「胸を張って堂々と生きる」の話をしています。特に、人を傷つけず、人に対して優しい気持ちを持ってほしいことなどを訴えています。

下の文章は、前任校の最後のPTA新聞に私が寄稿したものです。

「優しい人になりたい」

校長 福留憲一

「あなたは今、何かに対して、誰かに対して怒っていませんか？その怒っている姿はいつものあなたですか？」先日、たまたまこのような文章を目にしました。私はふと、今年度の二学期始めの出来事を思い出しました。二学期始めといえば、夏休みにコロナ感染が広がり、二学期の学校開始について、より慎重さが求められたり、効果的な対応策を考えたりと、かなり悩ましい時期でありました。また、学校長として対策等の総責任者としてプレッシャーもかなり感じている状態でした。

私はその時、ある成人のスポーツ団体に所属しており、コロナ禍で行われるスポーツ活動についても慎重さが求められると感じているときでした。詳しくは書けませんが、団体代表者からの様々な連絡や調査に対して、かなり苛立ちの感情をもってしまいました。そして、つい不平・不満・怒りをぶつけてしまいました。しかし、その言動は、相手の立場（代表として団体をより良くしたいという思い等）をないがしろにする自分よがりな考えだったと、後になって気付きました。

（ちゃんとお詫びはしましたが…。）

慎重な言動に心がけているつもりでしたが、そのような言動をとってしまったということは、自分にとってもかなりショックなことでした。コロナ禍の中で、不安や抑制を感じていると、このような攻撃的な感情をもってしまうという恐ろしさを感じた出来事でした。

さて、みなさんはいかがでしょう？コロナ禍でご自身の心が荒れてしまっていないでしょうか？人や物事に対して不平・不満・怒りをぶつけていないでしょうか？もし、そのような感情になってしまったときは、自分を相手の立場に置き換えて考えることも大事なのではないかと考えます。私自身、人権尊重（自分のことが大切だと思うように、相手のことを大切に思う心）を説きながら、実践できていなかったことを大いに反省しているところです。

私たち人間には感情があり、そのコントロールはなかなか難しいものだと思っています。しかし、いつも心の中に「優しい人になろう！」と思いつけることも大事なのではないかと思っています。コロナ禍で、マスク越しでしか話もできず、人間的なつながりが希薄になっていると感じている時だからこそ、優しい気持ちをもって、人に接していきたいと思っています。それに、感情的になると幼い人に見られるとも言われています…。大人の対応をとれるようになりたいと思います。

来年度は創立150周年に関する様々な行事が実施されると思います。みんなが優しい気持ちで協力し合い、記念事業を盛り上げていきましょう。

コロナ禍で、人と人との関係性が脆弱になると、自分だけの主張を声高にあげ、相手を感じる気持ちが欠け、ついつい攻撃的になりがちです。これは、大人だけでなく子どもの世界にも言えることだと考えます。マスク越しで顔の見えない状況は、顔の見えないSNSの世界と似たような状況になってしまいます。そんな時だからこそ、冷静に落ち着いた行動で、どのような対応をとればよいのか周囲の人とも話し合うことが大事だと思います。

学校においては、児童一人ひとりの幸せや自己実現が達成できるための取組を進めてまいります。ぜひ、学校と家庭が連携し「胸を張って堂々と生きる」子どもを育てていきましょう。

☆ お知らせ・お願い ☆

【感染症関係について】

- ・ コロナ感染症がすいぶん落ち着いてきたようです。昨日も学校メールでお知らせしたとおり、現時点の判断として、授業参観や学級PTAを予定通り実施することに決定いたしました。ただ、これまで同様、感染症対策（マスク、検温、密を避ける、手指の消毒等）の継続はお願いいたします。（風邪症状がある場合は、参加の自粛をお願いいたします。）
- ・ 同居する家族に風邪症状がある場合、病院等で病名が判明するまでは自宅待機（出席停止）となります。また、PCR検査を受けなくてはならない家族がいる場合も自宅待機となります。（もし登校していた場合、早退することになります。）

学校教育目標「胸を張って堂々と生きる」 青少年赤十字の目標「気づき・考え・実行する」